

日本ビジネス航空協会 会報

2020年7月号



CONTENTS

- ◇ ウイルスとの共生の時代－ビジネスジェットを利用しない手はない 1 ページ
- ◇ JBAA HP ACCESS 実績 3 ページ

ウイルスとの共生の時代 – ビジネスジェットを利用しない手はない

COVID-19 Pandemicにより世界の多くの国で入国制限を課しました。また、国内に於いても不要不急の移動制限を課したため、航空輸送機関は未曾有の減便、事実上の運航停止に追い込まれました。

昨今、ようやく一部の国では運航再開、復便の動きが見られますがまだまだ回復には時間を要するものと予想されています。図1は航空会社の定期便の運航便数の推移（前年実績含む）を示していますが、若干改善の兆しは見られますが、まだまだ、昨年度の実績までには大きな乖離があります。

一方、図2はビジネスジェットの運航便数の推移（前年実績含む）を示していますが、運航便の回復は顕著です。この差はどこから生じているのでしょうか？

図1 Scheduled Flight

Total Commercial – 2019 vs 2020 – 7 day avg



All scheduled flights operated by an airline are considered as commercial. Private flights and light aircraft are not considered.

図2 Business Jet Flight

Total Business – 2019 vs 2020 – 7 day avg



出典：AirNav Systems

Our algorithms filters business jets by specific aircraft types and business jet operators.

さすがに3月後半から4月前半は入国制限の影響によりビジネスジェットも運航便縮小となりましたが、個別のニーズに応じた運航であるビジネスジェットは、一程度の規模の需要回復が見込めてから復便する定期便とは明らかに異なり、ニーズに対する柔軟性が高いことがグラフからも伺えます。

図3はUS国内、図4はUS-Europeの推移です。EuropeへのFlightはまだまだの状況ですが、US国内は既に回復しています。



図3 US-US

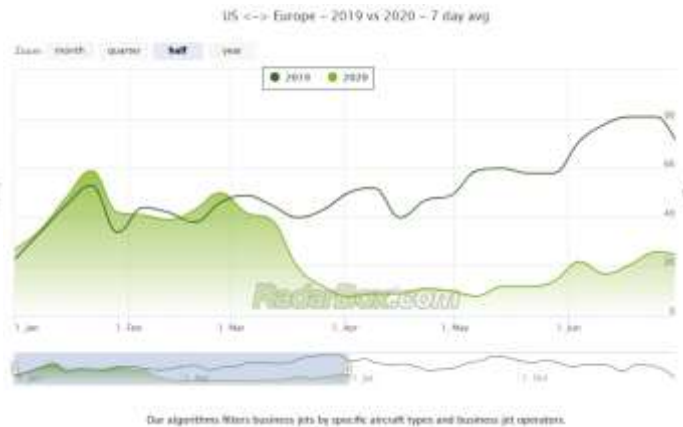


図4 US-Europe

COVID-19 Pandemic 下で、顧客がビジネスジェットを選ぶ理由として、渡航歴が「不明な」何百人もの乗客と一緒に閉鎖された空間にいたくないという気持ちや、ビジネスジェットの利用者は通常、混雑した主要空港ターミナルから離れた場所で税関手続きや入国審査を行えることなどによる感染防止効果を挙げているようです。

機動性、柔軟性、秘匿性に加え、感染抑制の安全性も大きなアドバンテージであることが証明されたビジネスジェットはウイルスとの共生が余儀なくされる時代には更に期待されるものとなるのではないのでしょうか。

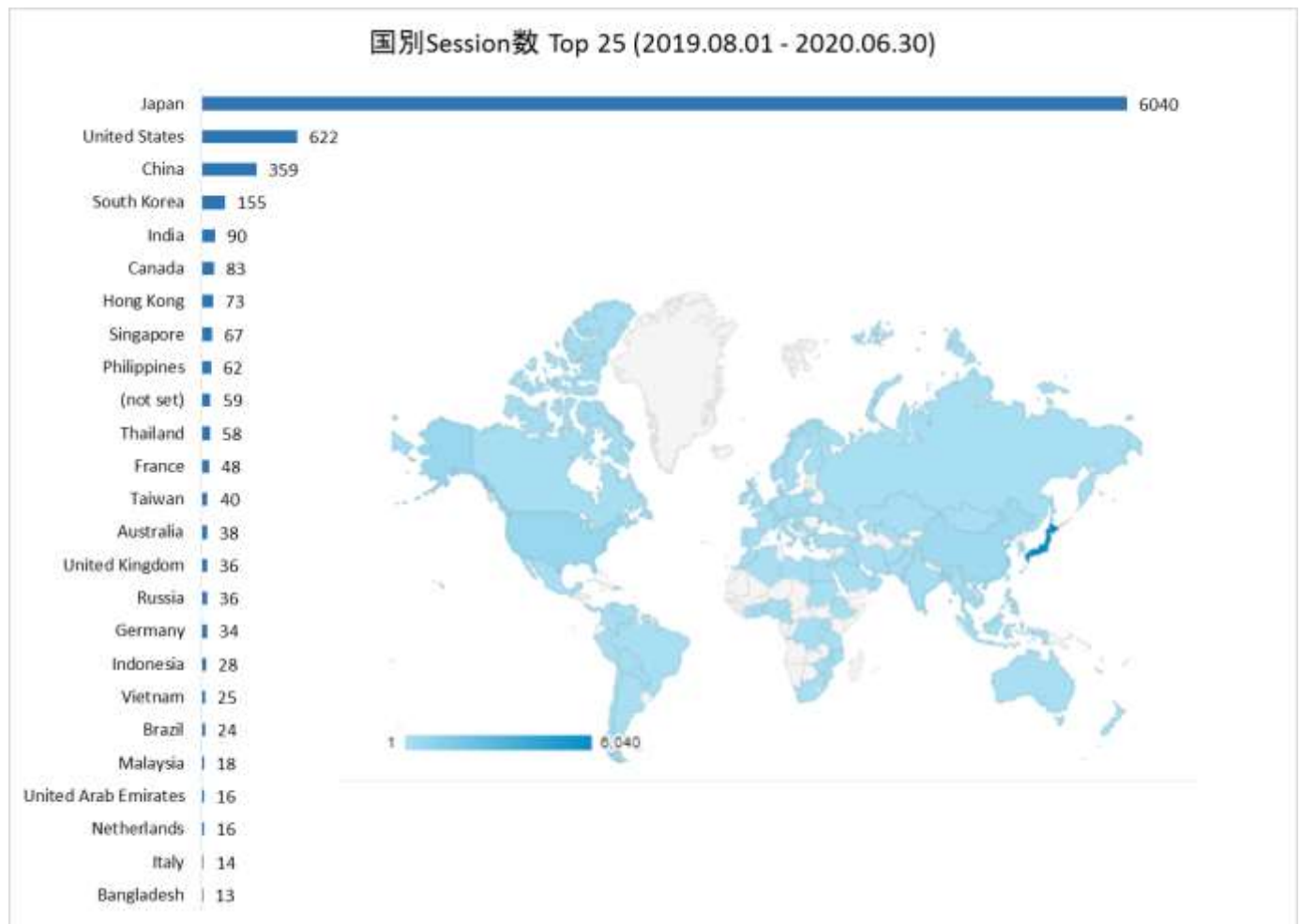
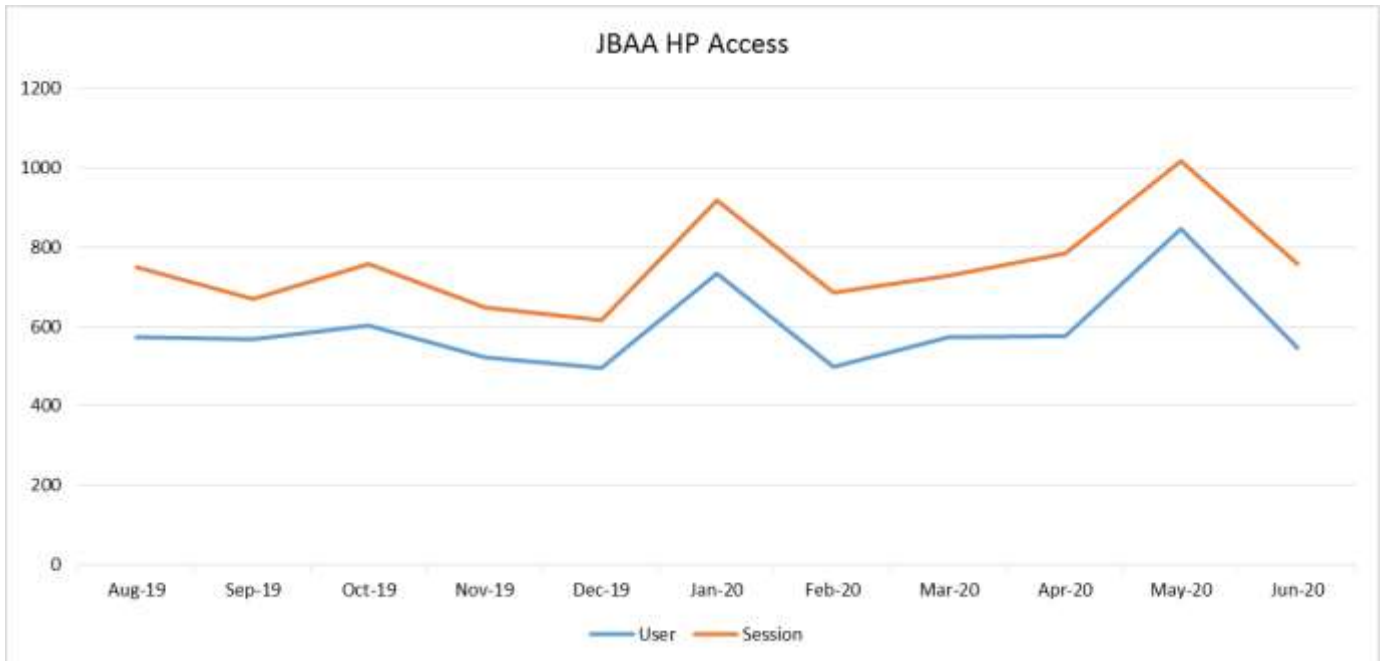
こんなサイトもありました。一読してみてもいかがでしょうか。

COVID-19 AND BUSINESS AVIATION

[HTTPS://WWW.BJTONLINE.COM/BUSINESS-JET-NEWS/COVID-19-AND-BUSINESS-AVIATION](https://www.bjtonline.com/business-jet-news/covid-19-and-business-aviation)

JBAA HP ACCESS 実績

As of Jun 30, 2020



空港別アクセス数 Top 25 (2019.08.01 - 2020.06.30)

